

千歳基地における訓練移転に伴う飛行回数の試算について

具体的な訓練計画については、今後日米間で協議していくこととしているので、現時点で飛行回数を明らかにすることはできないが、仮に千歳基地において、共同使用日数の全てを使用して日米共同訓練が行われた場合の米軍の飛行回数の増加分を試算すれば次のとおり。

なお、本飛行回数は、地元に移転訓練に伴う騒音状況についてイメージを持っていただくため、参考の一例として、いくつかの仮定を設けて試算したものであり、これをもって米軍の飛行回数を規定するものではない。

- 1 千歳基地における移転訓練の規模及び回数については、他の基地とのバランス等を踏まえ、60日間全てを使用し、タイプ1とタイプ2の使用日数の比率を1:1として下表のとおり仮定。

訓練規模	機数	訓練期間	回数	使用日数	
タイプ1	5機	4～5日間	7回	30日	
タイプ2	12機	10日間	3回	30日	計60日

- (注1) 日米合同委員会で合意されている共同訓練時の使用条件
年約4回、1回約3日から20日まで、年60日以内
- (注2) 先月、地元の説明した移転訓練の規模の参考例

タイプ	米軍航空機の規模	自衛隊航空機の参加規模	訓練期間
1	1～5機程度	米軍機の規模と同程度	1～7日間程度
2	6～12機程度	米軍機の規模と同程度	8～14日間程度

- 2 飛行回数は最大で1,900回程度と仮定。

なお、本飛行回数は民間機を含めた千歳基地全体の管制回数（離着陸等の管制上の取扱回数）約133,000回の約1.4%に相当。（自衛隊機の管制回数約21,000回の約9.0%に相当）

訓練規模	飛行回数	
タイプ1	5機 × 30日 × 5回/日 =	750回
タイプ2	(訓練期間) 12機 × 18日 × 5回/日 = 1,080回 (準備・撤収期間) 12機 × 6日 × 1回/日 =	72回
計		1,902回 約1,900回

- (注1) 飛行回数は、訓練期間中は、午前と午後の訓練で離着陸を各1回、及び着陸時に慣熟飛行を1回行うものとして、1機、1日当たり5回離着陸するものと仮定。また、準備・撤収期間はそれぞれ1日1回の離陸又は着陸を仮定
- (注2) タイプ2の場合、訓練期間（原則として休日等は訓練を自粛するため8日と仮定）の最初と最後に各1日の準備・撤収期間を仮定